

## 評価シート 様式

取組名	里山再生よりみち大学		
実施団体名 (代表団体名)	NPO法人 おぢや元気プロジェクト	対象地域	新潟県小千谷市「上片貝地区」・川口町「田麦山地区」他
		推薦団体名	新潟県小千谷市・川口町
① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか		平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。 (備考・特記事項)		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。 (備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について		平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかつたと認められる。 (備考・特記事項)		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。 (備考・特記事項)
		② 実施 体制	④ 継続 展開 の見 込み

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	里山再生よりみち大学		
実施団体名 (代表団体名)	NPO法人 おぢや元気プロジェクト	対象地域	新潟県小千谷市「上片貝地区」・川口町「田麦山地区」他
		推薦団体名	新潟県小千谷市・川口町

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	里山の生活や環境そのものが、人と人の交流をとおして、規模は小さいながら観光資源となり得ることを提示しつつある点において、他の同様の地域においても参考となるモデル性がある。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。	
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、里山の生活や環境そのものが規模は小さいながら観光資源となり得ることを提示できたことが評価できる。今後は、以下の点に留意しつつ、地方の元気再生事業を継続することにより、本格的な展開が期待できるものである。
	次年度以降については、里山よりみち大学を持続的な活動としてつなげていくための体制づくりを中心に取組を深化させていくべきである。具体的には、次年度予定している本格的な運営システムの確立に向けた、「民泊受入れ者の拡充方法検討」や、「カリキュラムの充実・地域の人材掘り起こし」等については、里山よりみち大学の持続的な運営体制の構築に必要な不可欠なものであり、目標を明確に定めたうえで実施すべきである。
	また、「地方自治体との連携」や「情報発信」についても重要な取組である。その際、地域住民の理解を促進することにも留意すべきである。他方、「里山の暮らし体験システム」については、よりみち大学における1, 2泊の民泊とは目的を異にする移住等を目的とした取組と考えられ、上記取組に集中するという観点からも、実施の要否も含めて抜本的に見直されたい。